

宇都宮市総合計画市民懇談会 地域経済循環社会創出分科会

地域経済循環社会創出プロジェクトについて

【議事概要】

「スーパースマートシティ」を構成する「地域経済循環社会」の目指す姿と、その実現に向けた「まちづくり好循環プロジェクト」である「地域経済循環社会創出プロジェクト」の内容等について協議するもの

令和4年1月21日
総合政策部 政策審議室

■ 報告事項

1. 改定基本計画の策定について（P3～6）
2. 「まちづくり好循環プロジェクト（以下「プロジェクト」という。）」の構築について（P7～13）

■ 協議事項

3. 地域経済循環社会における「市民生活の姿」の構築について（P14～16）
4. プロジェクト全体像の作成について（P17～26）

■ その他

5. 今後のスケジュールについて（P27）

（紙面配布資料）

【資料1別紙1】取組テーマ等の導出について

【資料1別紙2】地域経済循環社会創出プロジェクトの全体像について

改定基本計画策定のポイント

- ① 「スーパースマートシティ」の実現を図る計画
- ② 分野横断的施策や各政策分野をけん引する事業に重点化した計画

1 改定基本計画の策定について

「スーパースマートシティ」とは？

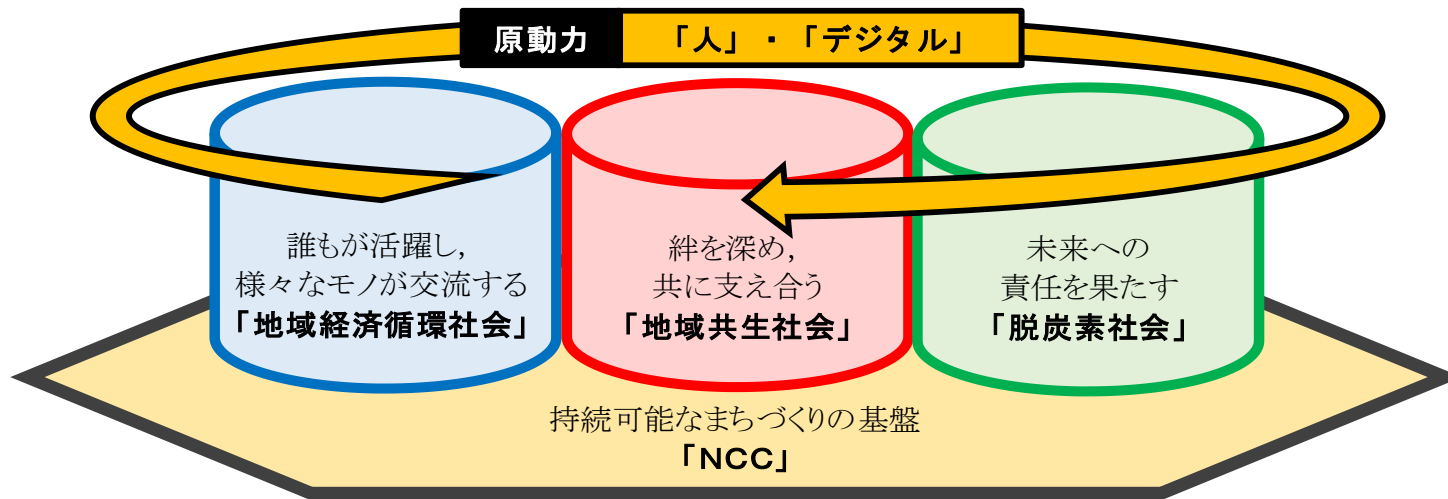
子どもから高齢者まで、誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、**夢や希望がかなうまち**

「将来のうつのみや像（都市像）」を実現し、SDGsの達成に貢献していくため、**概ね2030年頃を見据えた具体的なまちの姿**として、「スーパースマートシティ」の実現を目指していく

1 改定基本計画の策定について

具体的な「スーパースマートシティ」の構成イメージ

SDGsの達成に向けて

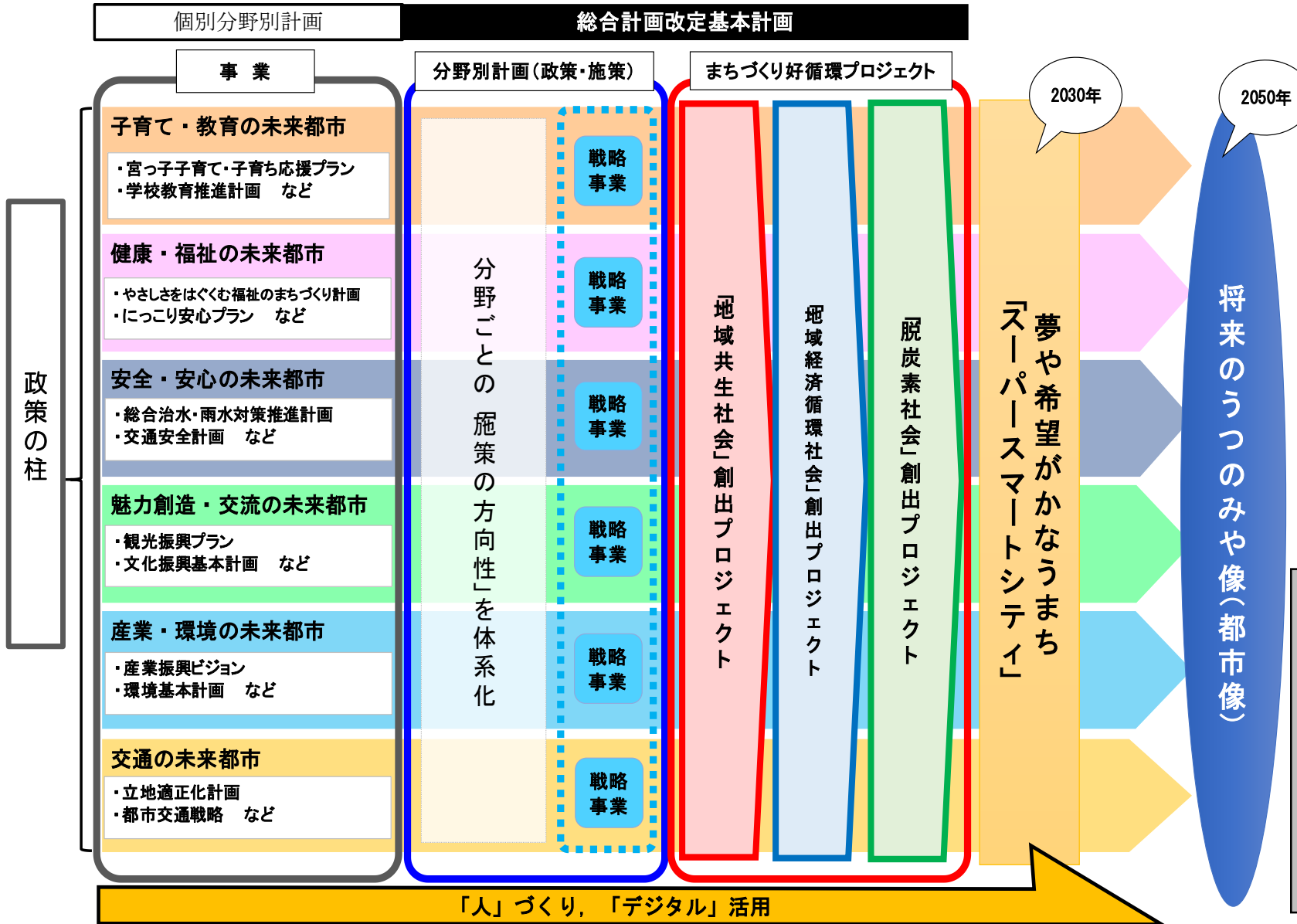


持続可能な都市構造である「NCC」を基盤としながら、「地域共生社会」（社会）、「地域経済循環社会」（経済）、「脱炭素社会」（環境）の3つの構成要素が融合し、「人」と「デジタル」を原動力に発展を続けられるまち

NCC × SDGs の3側面

SDGsの達成にも貢献

1 改定基本計画の策定について



- 分野別計画については、引き続き、基本構想に掲げる「まちづくりの基本方向（6つの未来都市）」により構成する。
- 複雑化・多様化する課題や市民ニーズに効果的に対応し、まちづくりを加速化していくため、「スーパースマートシティ」を構成する「3つの社会」ごとに「まちづくり好循環プロジェクト」を設定する。

令和4年度の市民懇談会で議論

- スーパースマートシティを構成する「3つの社会」が目指すべき社会像について
- 「3つの社会」の実現に向けて必要となる分野横断的取組（まちづくり好循環プロジェクト）について

2. プロジェクトの構築について

○ 現行計画におけるプロジェクトの位置づけ

「まちづくりの好循環」の加速化を図ることで、「将来のうつのみや像（都市像）」の実現を目指し、特に効果が高い先導的な取組や複数の分野の連携が不可欠な横断的な取組、他の分野への波及効果が高い取組などをまとめたもの。



● 「まちづくりの好循環」について
基本構想の「まちづくりの基本方向」で示す「6つの未来都市」の実現に向けた取組が密接につながり、相互に連携・補完し、人づくりとまちづくりを一体的に進めることで、相互の未来都市の実現に好影響をもたらすこと

2. プロジェクトの構築について

○ 現行計画における3つのプロジェクトについて

	プロジェクト名	内容	取組テーマ
1	(輝く人の和) NCCが支える共生社会創出プロジェクト	ネットワーク型コンパクトシティ（NCC）の形成による都市構造の強みを生かし、少子・超高齢社会においても、高齢者・障がい者・子どもなど全ての人が暮らしやすく、生きがいを持った「地域共生社会」を創出する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムの推進 ・子どもを守り育てる社会づくり ・誰もが安心して移動できる社会づくり
2	(つながるまちの環) ICTで暮らしもまちも元気プロジェクト	生産年齢人口の減少下においても、ICTの恩恵を受けられる環境を構築することで、AI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）、ドローン等の技術が人やモノの活動をサポートし、様々な分野における市民の身近な暮らしの利便性向上や活力あるまちの形成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの恩恵を享受できる環境の構築 ・市民の身近な生活の利便性向上 ・新たなサービス創出を通じた産業の振興
3	(魅力と夢の輪) ブランド発掘・創造・発信プロジェクト	少子化が進行する中、若い世代の流出を抑制するため、市民が誇りを持って住み続け、さらに、市外の人たちに対し積極的に本市の良さをPRし、本市が人や企業に選ばれるまちとなるよう、誰もが活躍できる社会を創出するとともに、都市の魅力を引き上げ、宇都宮ブランドの発掘・創造・発信を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・大谷、LRT、自転車のまちなど地域資源のフル活用 ・宇都宮暮らしの魅力向上・発信による移住・定住の促進 ・女性が活躍できる社会の構築

2. プロジェクトの構築について

○ プロジェクト検討に当たっての基本的な考え方

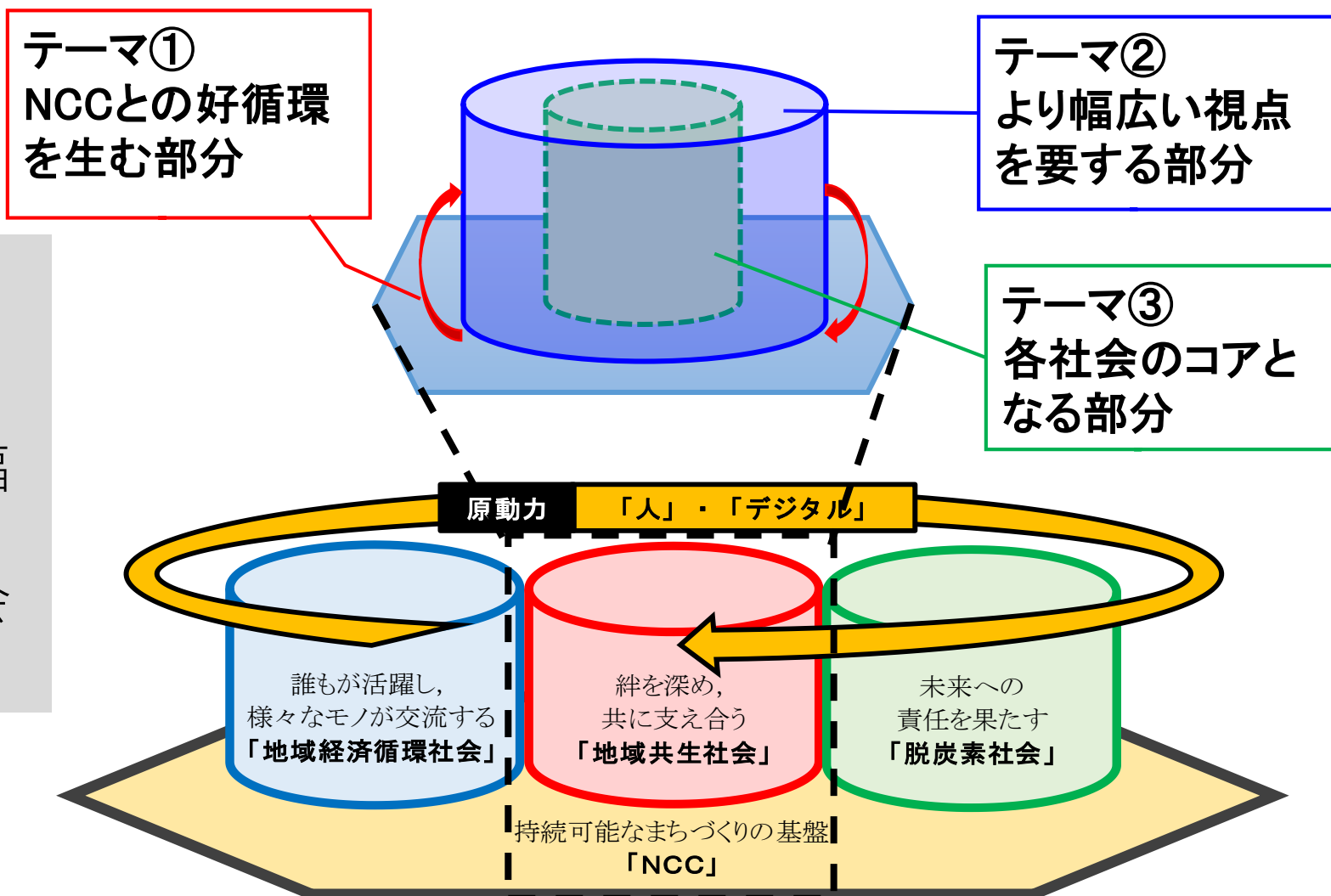
- 改定基本計画におけるプロジェクトについては、現計画と同様の位置づけとし、「スーパースマートシティ」を構成する「3つの社会」ごとに構成する。
- プロジェクトごとに、分野横断的な視点を要する3程度の「取組テーマ」を設定し、「取組テーマ」ごとに具体的な施策をまとめていく。

2. プロジェクトの構築について

○ 「取組テーマ導出のコンセプト」について

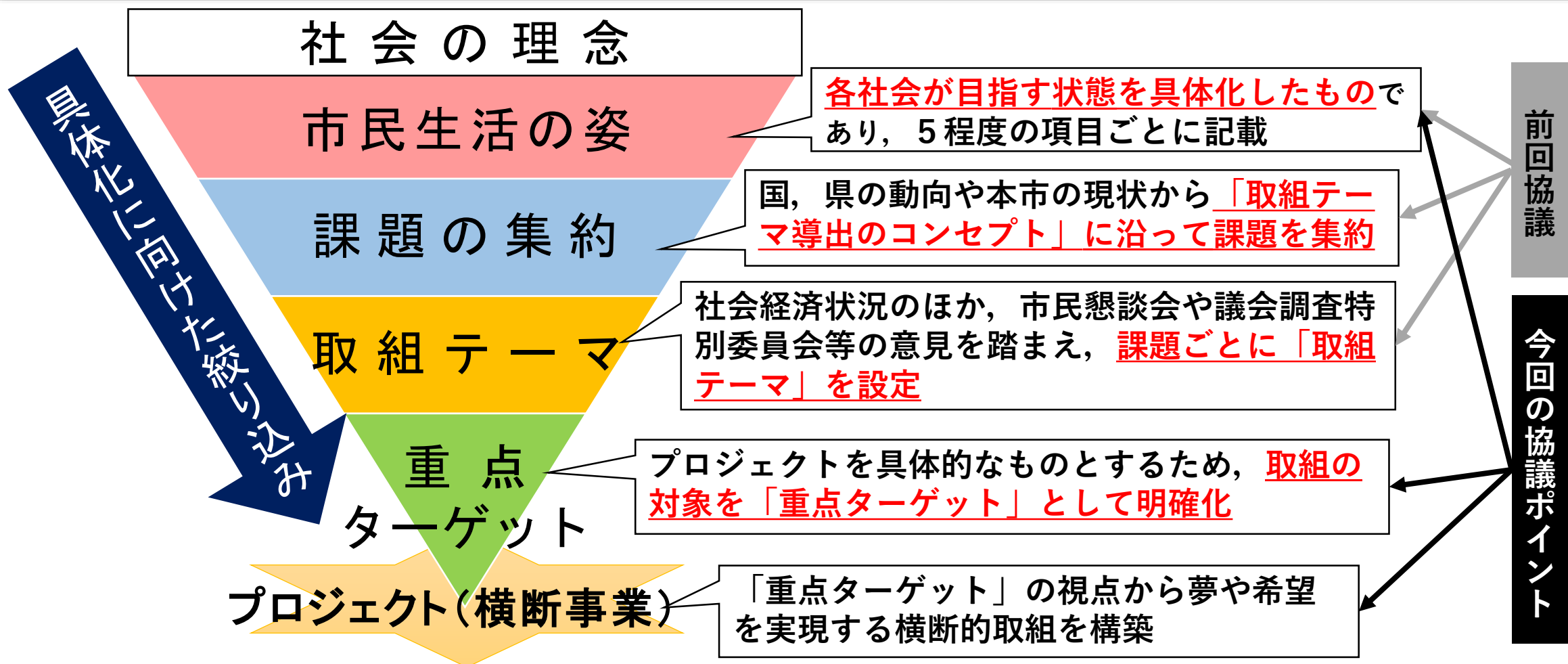
■ 取組テーマ導出のコンセプト

- ① SSCの基盤となるNCCと連携した取組テーマ
- ② 横断的テーマのうち、より幅広い視点を要するテーマ
- ③ 横断的テーマのうち、各社会のコアとなるテーマ



2. プロジェクトの構築について

- プロジェクトは「スーパースマートシティ」の実現を目指す取組として、市民が将来に夢や希望を持つことができるものとする。
- また、取組が一般的・抽象的なものになることを避けるため、テーマやターゲットの絞り込みを行いながら、より具体的な内容としていく。



○「取組テーマ導出のコンセプト」に沿った課題の整理

① 場所や時間にとらわれない働き方ができる都市環境の創出

- 交通ネットワークの構築やICT化等の推進により、人・モノ・カネが自由に移動でき、場所や時間にとらわれず、多様な働き方ができる都市環境の創出が必要

② 多様な人々が活躍でき、必要な人材を確保できる体制の構築

- 中小企業や農業等における担い手不足の解消に向け、デジタル等の活用も含め、女性や障がい者等の個人の属性や環境によらず、地域経済を支える様々な人材を確保できる体制の構築が必要

③ 社会経済環境の変化に対応した地域産業の成長促進

- 本市の魅力的な地域資源を活用した地域イノベーションの創出や、地域産業におけるDXやGXの推進などを産学官金の連携体制が支えながら、持続的に発展できる地域産業構造の確立が必要

○ 整理した3つの「取組テーマ」

取組テーマ① 多様な働き方ができる都市環境づくり

- NCCの拠点形成の推進によって、都市拠点にイノベティブな人が集まり、交流による地域資源を活用した新たな経済活動の創出につながるとともに、各拠点は階層性のある公共交通ネットワークが構築され、交通利便性の高い住環境が整備されていることで、デジタル技術を活用したテレワーク環境が充実し、誰もが地理的制約や時間に縛られることなく、多くの業種で多様な働き方ができるまちを目指す。

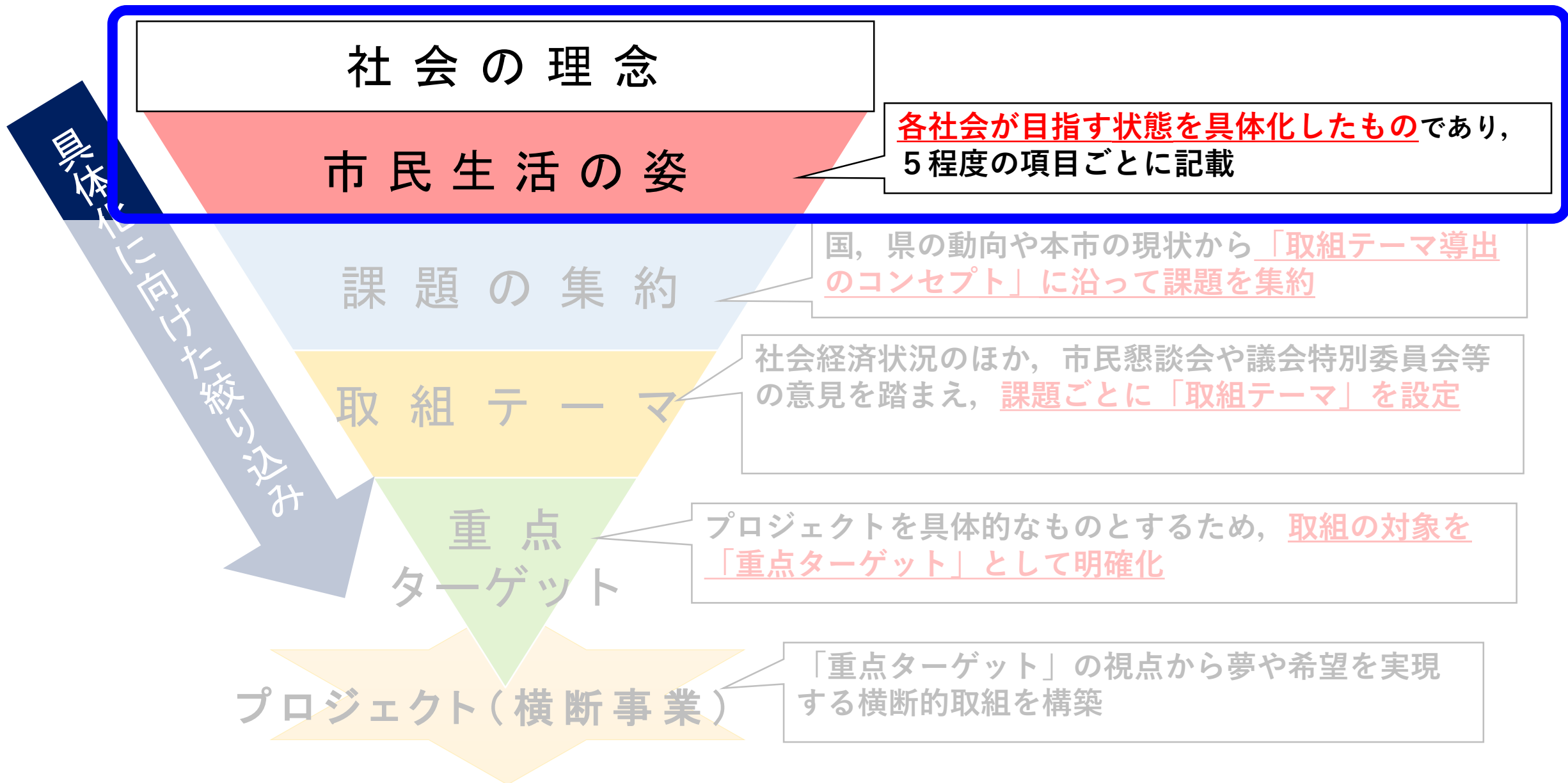
取組テーマ② 地域経済を支える多様な人づくり

- 本市に住まう誰もが、未来社会を切り拓くための学校教育や、大学等と連携したりカレント教育を受けられる体制が整っており、デジタル等の知識や技術を習得しながら自身の可能性を最大限高められ、個人の属性や環境によらず、いつでも、やりたい仕事を選択し、生涯に渡り活躍できる人材を育成するとともに、市外の多様な能力を有する人々が、地域経済循環を支える人材として活躍できるまちを目指す。

取組テーマ③ 各産業の強みを生かした持続的な産業構造の確立

- 各産業がそれぞれの強みを生かし、産学官金との連携を図りながら、本市の地域資源を生かしたまちづくりやイノベーション創出の支援を充実させるとともに、DX・GXの推進などの取組により、第一次産業から第三次産業まで「創造力」「耐久力」「循環力」「稼ぐ力」を高め、人や企業から選ばれ、将来にわたって持続的に発展するまちを目指す。

3. 「市民生活の姿」の構築について



3. 「市民生活の姿」の構築について

○ 基本的な考え方

- 現在改定基本計画策定方針で掲げる「3つの社会の理念」は、抽象的な内容であることから、プロジェクトが目指す社会の姿として、より具体化した「社会像」を構築する。
- スーパースマートシティ実現の目的は市民の豊かな生活（Well-Being）の実現であることから、「社会像」は市民の生活に焦点を当てた「市民生活の姿」として構築し、「身体的状態」、「心理的状态」、「社会的関係」、
「生活環境」の4つの領域（※）で整理を行う。

※ 世界保健機関（WHO）が定めた、「生活の質（QOL :Quality of life）」の測定・評価を行う4領域

○ 「市民生活の姿」の構築

- 4つの領域それぞれにおいて、別紙1で整理した社会の考え方や現状などから、生活の姿として盛り込むキーワードの抽出を行う。
- 抽出したキーワードを盛り込みながら、市民目線からの親しみやすい表現により、「市民生活の姿」を構築する。

3. 「市民生活の姿」の構築について

領域	項目	関連するキーワード	地域経済循環社会における市民生活の姿
① 身体的領域	日常生活動作／医薬品と医療への依存／活力と疲労／移動能力／痛みと不快／睡眠と休養／仕事の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきと生活している ・余暇活動を楽しめる ・仕事で活躍している 	① ワークライフバランスが実現し、誰もが快適に働きながら余暇活動を楽しむことができ、いきいきと生活しています。
② 心理的領域	ボディ・イメージ／否定的感情／肯定的感情／自己評価／精神性・宗教・信念／思考・学習・記憶・集中力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしい、自分を認めている ・学ぶことができる 	② 誰もが必要な知識や技術を習得できる環境が整っており、自分らしく生きがいをもって働くことができます。
③ 社会的関係	人間関係／社会的支え	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なつながりや絆が生まれる 	③ 産学官金が一体となって、様々なチャレンジを支えることで、高い付加価値を創出し、地域外から新たなヒトやモノを呼び込んでいます。
④ 生活環境領域	金銭関係／自由・安全と治安／健康と社会的ケア：利用のしやすさと質／居住環境／新しい情報・技術の獲得の機会／余暇活動への参加と機会／生活圏の環境／交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用や経済が安定している ・快適な住宅、生活環境がある ・移動しやすい環境が整っている ・情報を入手できる 	④ 社会経済の変動に強い耐久力を高めた産業構造の構築により、雇用が安定的に確保でき、豊かな生活ができています。 ⑤ 快適な移動環境が整っており、新たな技術等を活用することで、様々な場所で新たな交流による活動を生み出しています。

※ 4領域のうち、「生活環境領域」については、多様な分野が含まれているため2分割して生活の姿を描く 16

4. プロジェクト全体像の作成について



4. プロジェクト全体像の作成について

○ 重点ターゲットの設定

- プロジェクトが一つの横断的取組として具体的なものとなるよう、取組の対象を「重点ターゲット」として明確化する。
- 「重点ターゲット」は、改定基本計画の策定に向けて捉えるべき重点課題（※）や各「取組テーマ」の趣旨を踏まえるとともに、令和3年度の市民懇談会や議会調査特別委員会等における意見を参考としながら設定する。

※ 「人口減少・少子超高齢化の深刻化」，「市民の豊かな生活を実現する官民と連携したDXの推進」，「脱炭素社会構築に向けた要請」，「新型コロナウイルス感染症による人々の価値観の変容への対応」の4点（詳細は次頁参照）

◆人口減少・少子超高齢化の深刻化

- 本市では、全国を上回るペースで少子化が進行するとともに、高齢化率は今後も上昇を続け、2025年頃には団塊の世代が後期高齢者になることから、これまで以上に少子化対策や高齢化に対応したまちづくりを強化する必要がある。

◆市民の豊かな生活を実現する官民と連携したDXの推進

- 本市においては、最先端の技術を活用したスマートなまちづくりを進めてきたところであり、引き続き、誰もがデジタル技術の恩恵を享受しながら豊かな生活を実現できる全国のモデルとなるスマートシティの実現に向け、官民が連携したDXを進める必要がある。

◆脱炭素社会構築に向けた要請

- 国際社会共通の目標であるSDGsへの貢献や地球温暖化を起因とする自然災害の激甚化に対し、国際社会の一員としての本市の責任を果たしていくため、「カーボンニュートラル」の達成に資する取組を強力に推進していく必要がある。


◆新型コロナウイルス感染症による人々の価値観の変容への対応

- テレワークの実施やオンラインを利用したコミュニケーションの推進などの「新しい生活様式」への転換、若者の地方移住への関心の高まりなど、人と人のつながり方や価値観の変化が加速化しており、それらに速やかに対応していく必要がある。

4. プロジェクト全体像の作成について

取組テーマ① 多様な働き方ができる都市環境づくり


取組テーマの内容	<p>NCCの拠点形成の推進によって、都市拠点にイノベティブな人が集まり、交流による地域資源を活用した新たな経済活動の創出につながるるとともに、各拠点は階層性のある公共交通ネットワークが構築され、交通利便性の高い住環境が整備されていることで、デジタル技術を活用したテレワーク環境が充実し、誰もが地理的制約や時間に縛られることなく、多くの業種で多様な働き方ができるまちを目指す。</p>
横断的取組のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> • <u>多様な人材が交流し、新たなビジネスを生み出す交流の場を構築</u> • <u>様々なライフスタイルに対応した働き方ができるまちづくりの推進</u>
市民懇談会等における意見	<ul style="list-style-type: none"> • コワーキングスペースやシェアオフィスの充実が必要 • NCCの拠点にサテライトオフィス等の整備が必要 • 人が更に集まり、産業も持続的に発展するには、人間の感覚が気持ち良く感じられる空間の形成が必要 • 郊外のテレワーク拠点形成と中心市街地の共同オフィススペースの確保が必要


多様な働き方をする人を重点ターゲットとし、新たなビジネスの創出に向けた交流の場づくりや、様々なライフスタイルに対応した働き方ができるまちづくりを推進

4. プロジェクト全体像の作成について

取組テーマ② 地域経済を支える多様な人材づくり

取組テーマの内容	<p>本市に住まう誰もが、未来社会を切り拓くための学校教育や、大学等と連携したりカレント教育を受けられる体制が整っており、デジタル等の知識や技術を習得しながら自身の可能性を最大限高められ、個人の属性や環境によらず、いつでも、やりたい仕事を選択し、生涯に渡り活躍できる人材を育成するとともに、市外の多様な能力を有する人々が、地域経済循環を支える人材として活躍できるまちを目指す。</p>
横断的取組のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>子どもや若者が夢や希望に向かって挑戦できる環境づくりの推進</u> ・ <u>女性が新たなスキル等を習得する機会の創出</u>
市民懇談会等における意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰もが活躍できる社会の構築のため、行政や地域と大学が連携し、様々な分野で活躍できる人材の育成・確保が必要 ・ 全世代が様々な産業に参画できる環境づくりが必要 ・ 大学との連携による取組を推進し、社会人の学び直しの機会の拡充が必要 ・ 若者や女性にとって魅力ある産業の誘致・育成や、UJIターンの促進が必要


子どもや女性等を重点ターゲットとし、未来を切り拓いていけるようキャリア教育の推進や社会環境の変化に対応できるスキル等を習得できる人づくりを推進

4. プロジェクト全体像の作成について

取組テーマ③ 各産業の強みを生かした持続的な産業構造の確立

<p>取組テーマの内容</p>	<p>各産業がそれぞれの強みを生かし、産学官金との緊密な連携を図りながら、本市の地域資源を生かしたまちづくりやイノベーション創出の支援を充実させるとともに、DX・GXの推進などの取組により、「創造力」「耐久力」「循環力」「稼ぐ力」を高め、人や企業から選ばれ、将来にわたって持続的に発展するまちを目指す。</p>
<p>横断的取組のイメージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>地域イノベーションの創出に向けて、産学官金が一体となった支援体制を強化する。</u> ・ <u>グリーン・デジタル分野にフォーカスした誘致を強化し、本市産業の活性化や雇用の創出を図る。</u>
<p>市民懇談会等における意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脱炭素化の促進により、地域経済に好循環を生む施策の導出が必要 ・ 地域のスタートアップ企業への投資が充実できるよう、連携の強化と体制の整備が必要 ・ MICEの推進や地域観光資源への誘導を図り、交流人口を拡大・定着させる取組が必要 ・ 新産業や起業家の育成・経営安定化支援の充実が必要 ・ 産学官民の連携によるイノベーションの創出やベンチャー企業の発掘・育成が必要


グリーン・デジタル産業等の成長産業を重点ターゲットとし、産学官金が一体となった緊密な連携による支援体制の構築や、産業の集積を図る。

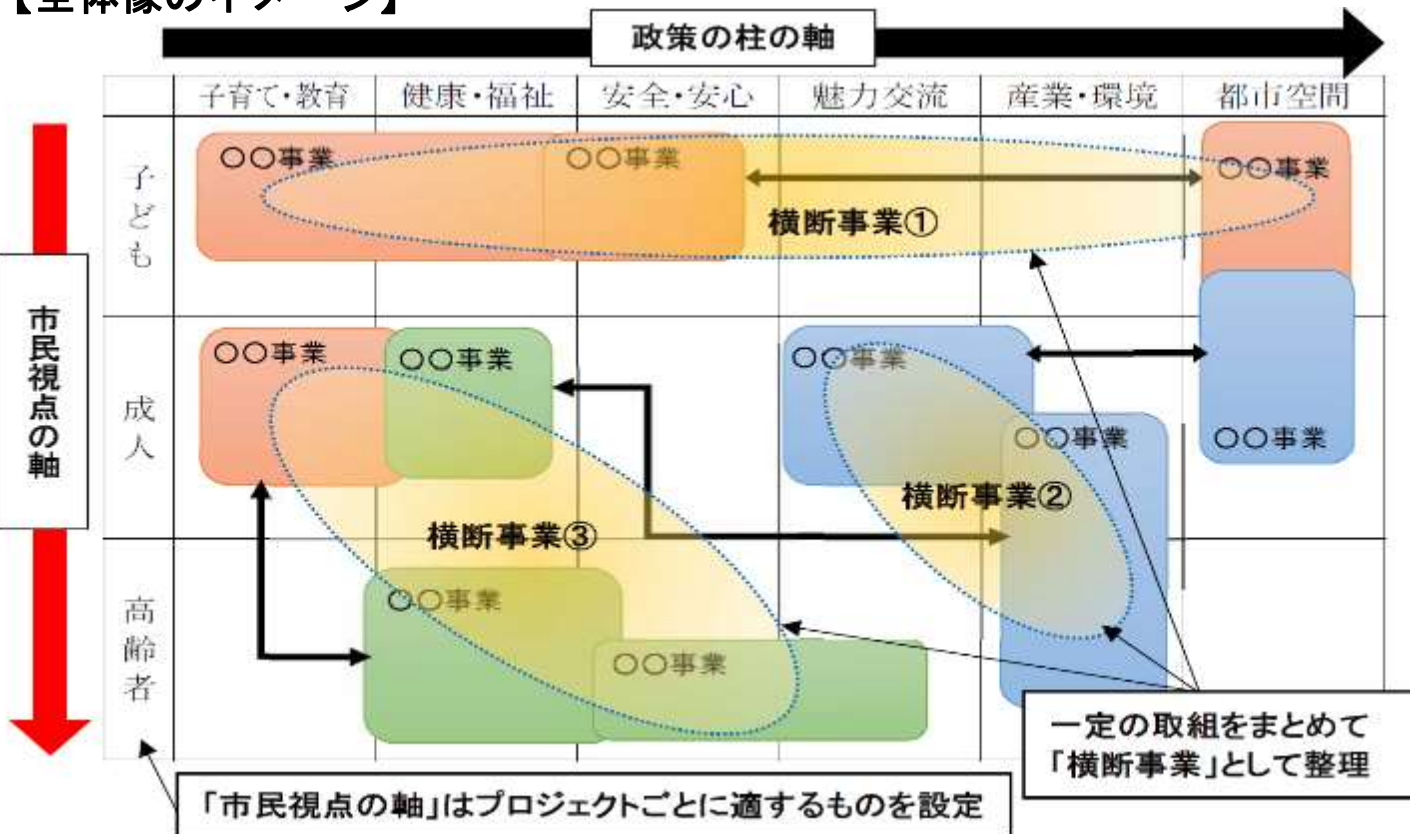
4. プロジェクト全体像の作成について

詳細は別紙2

○ 基本的な考え方

- プロジェクトは多様な分野や主体などが総力をあげて取り組む施策群であるため、「6つの未来都市（政策の柱）の軸」と、プロジェクトごとに設定した産業別の分類の2つの軸から関連する取組を整理
- 「取組テーマ」ごとに既存・新規事業の整理を行いながら、複数分野の連携により相乗効果が期待できる取組をパッケージし、計画期間中に実現を目指す「横断事業」として構築し、分かりやすくストーリー化

【全体像のイメージ】



【ストーリー化のイメージ】





取組テーマ① 多様な働き方ができる都市環境づくり

NCCの拠点形成の推進によって、都市拠点にイノベティブな人が集まり、交流による地域資源を活用した新たな経済活動の創出につながるとともに、各拠点は階層性のある公共交通ネットワークが構築され、交通利便性の高い住環境が整備されていることで、デジタル技術を活用したテレワーク環境が充実し、誰もが地理的制約や時間に縛られることなく、多くの業種で多様な働き方ができるまちを目指す。

● 重点ターゲット・・・ 多様な働き方をする人

<横断事業>

● イノベーションを生み出す交流の場づくり

⇒ グローバルな人・モノ・情報が活発に交流する都市拠点等において、地域課題解決や 新たなビジネス創出に向けたコミュニティの形成を促進する。

● NCCの強みを活かした多様な働き方が叶うまちづくり

⇒ LRTやバス、端末交通の整備やウォーカブルな都心部空間の形成により、職・住近接による「ゆとり」や「付加価値」が創出され、 様々なライフスタイルに対応した働き方ができるまちづくりを推進する。

取組テーマ② 地域経済を支える多様な人材づくり

本市に住まう誰もが、未来社会を切り拓くための学校教育や、大学等と連携したリカレント教育を受けられる体制が整っており、デジタル等の知識や技術を習得しながら自身の可能性を最大限高められ、個人の属性や環境によらず、いつでも、やりたい仕事を選択し、生涯に渡り活躍できる人材を育成するとともに、市外の多様な能力を有する人々が、地域経済循環を支える人材として活躍できるまちを目指す。

● 重点ターゲット・・・ 子ども・若者、女性

<横断事業>

- 宮っ子が将来の夢や希望に向かって生き生きと挑戦できる環境づくり
⇒宮っ子が自分の可能性を信じて前向きに挑戦し、未来を切り拓いていけるよう、発育段階に応じたキャリア教育を推進するとともに、プロフェッショナルな職業人等と触れ合う体験の場を創出する。
- 新たな仕事のスキルや知識を習得する機会の創出
⇒デジタル分野の技術革新や雇用の流動化、更には人生100年時代の到来など、目まぐるしい社会環境の変化に対応できる知識やスキルを身に付けることのできる「リカレント教育」や「リスキリング」を推進する。



取組テーマ③ 各産業の強みを生かした持続的な産業構造の確立

各産業がそれぞれの強みを生かし、産学官金との緊密な連携を図りながら、本市の地域資源を生かしたまちづくりやイノベーション創出の支援を充実させるとともに、DX・GXの推進などの取組により、「創造力」「耐久力」「循環力」「稼ぐ力」を高め、人や企業から選ばれ、将来にわたって持続的に発展するまちを目指す。

● 重点ターゲット・・・ グリーン・デジタル産業等の成長産業

<横断事業>

● 産学官金が一体となった緊密な連携による支援体制の構築

⇒ 地域イノベーションの創出に向けて、行政、経済団体、大学、金融機関等が一体となり、「オール宇都宮」で創業支援からスタートアップ支援、市内産業の成長支援まで、切れ目のない総合的な支援を行う体制を構築する。

● グリーンやデジタルなど成長が見込まれる産業の集積

⇒ グリーン・デジタル分野にフォーカスした誘致を強化し、ICTを活用した投資を呼び込むことで、本市産業の活性化や雇用の創出を図る。

5. 今後のスケジュールについて

● 今後のスケジュール（予定）

令和4年12月20日	総合計画市民懇談会	全体会
下旬～	パブリックコメント	開始
令和5年～1月中旬	パブリックコメント	締切
2月上旬	総合計画市民懇談会	全体会
下旬	改定基本計画の策定	
3月～	計画書冊子デザインの作成	

【参考】 うつのみや未来創造プロジェクト（通称「みやプロ」について）

- 概ね30代の市職員，民間企業や団体の職員，大学生等，42名が所属
- 令和4年9月30日に初回の会合を開催，10月28日に第1回目となるグループワークを実施
- 今後，「新たな宇都宮の名物づくり」や「大人の友達づくり」，「女性や若者の政治参加促進」など，メンバーの「やりたいこと」をテーマに，事業の深掘りを行っていく予定

9/30の様子



意見交換で作成したメモ

